

ジャパンレースディレクターズミーティング 2020 議事録

- ・日時：2020年10月19日（火）15：00～16：30
- ・出席者：参加者（139名）、日本陸連（7名）

1. あいさつ：尾縣貢（日本陸上競技連盟 専務理事）

- ・日本陸連としては、6月末までの大会の中止・延期をお願いし、7月から競技会を順次開催した。
- ・7月のホクレンディスタンスを皮切りに、8月のゴールドングランプリ、10月の日本選手権と開催し、事後の感染者の報告は受けていない状況である。
- ・これからは本格的なロードレース競技会が開催されていく。開催については、沿道対策など Track&Field 以上に大変なものがある。
- ・難しさは理解しているが、是非ロードレースの再開について進めて頂きたい。
- ・現在も既に開催に向けて準備をしている大会がある。その情報を是非共有頂きたいと思う。
- ・日本陸連は、公認大会も、非公認大会もすべての大会の力になれるように努力していきたい。
- ・日本陸連は、ガイダンスを出しているが、このハードルが高いということも聞かれている。ガイドラインではなく、ガイダンス（手引）とさせて頂いており、各大会のコロナ対策室にて、各大会や各地域の事情、実情に合わせて判断して頂きたいと思う。
- ・ガイダンスを中止の理由にするのではなく、是非利用して開催して頂きたいと思う。

2. 第一部 日本陸上競技連盟の新型コロナウイルス感染症対策

①ガイダンスの趣旨、6月実施のアンケート調査結果の共有

日本陸上競技連盟 事業部 RunLink 課 畔蒜洋平

- ・日本陸連でガイダンスを作成するにあたり、日本スポーツ協会の作成されたスポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドラインに基づき、Track&Field・ロードレースに関わるものと大きく2つに分けて作成を行った。
- ・ガイダンスの改版のタイミングについて尋ねられることがあるが、基本的には政府の方針や、日本スポーツ協会のガイドライン改版等に基づいて、日本陸連のガイダンスも改版を実施していく。
- ・今までも二度改版しているが、皆様のご意見踏まえ、今後も柔軟に変更加筆をしていく予定。
- ・6月に大会主催にアンケートをとった段階ではソーシャルディスタンスを考慮した運営について懸念されている大会が多かった。

・その次にボランティアの確保・医療従事者の確保というような人員の確保に課題を持たれていた。

・その他ガイダンスに盛り込んでほしい内容として、医療関係・中止時の対応・沿道対応等幅広くご要望を頂いたが、実際にガイダンスに反映させていただいたものもあれば、引き続き検討しているものもある。

・我々が作成したものはあくまでもガイダンスという目安であり、全国すべての大会を網羅できるものではないと思っている。

・各大会で、コロナ対策室を設けて頂き、大会の事情に応じた判断を改めてお願いしたい。

②GGP・日本選手権の新型コロナウイルス感染症対策

日本陸上競技連盟 事業部事業課長 吉澤永一

・陸上競技会の流れは以下の通り。

・2020年4月~6月末：陸上競技会の延期と中止を要請

・2020年7月~：競技会の再開

■ホクレンディスタンスチャレンジ 2020：7/4（土）、7/8（水）、7/15（水）、7/18（土）

会場：北海道 士別市陸上競技場／深川市陸上競技場／網走市営陸上競技場／千歳市青葉陸上競技場

■セイコーゴールデングラプリ陸上 2020 東京：8/22(土)-23(日)

会場：東京 国立競技場

■日本選手権・混成競技：9/26(土) -27(日)

会場：長野 長野市営陸上競技場

■日本選手権：10/1(木) -3(土)

会場：新潟 ビッグスワンススタジアム

・ガイダンスの策定は大きく2つ作成している。一つは日常活動を対象とした『日常における活動再開について』、もう一つは『競技会開催について』。

・陸上競技会を再開するにあたり特に注意した点として「最大限の感染症防止策」と「クラスターを発生させない」ということである。

■セイコーゴールデングラプリ陸上 2020

(参考：新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル)

https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202009/07_115743.pdf

・特別な対応はしておらず、基本的なことを徹底。

・体調管理チェックシートの事前提出、事後記録を義務付けたが、このチェックが非常に大変であった。

・こちらのチェックについても個人差があり、チェックがあった場合は連絡をして問診を実

施した。

■日本陸上競技選手権大会

(参考：新型コロナウイルス対策実施報告書)

https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202010/18_115039.pdf

- ・新潟県民限定 2000 人での開催。
 - ・体温記録活用アプリ（テレサ）の導入をしたため、一括で体調管理が可能となった。
- (参考：テレサ－体温記録活用アプリ－)

<https://www.albirex-rc.com/4905/>

・アプリを使って参加者は日々の体温の入力をする大会主催者側に共有され確認できるようになっている為、入力内容を陸連事務局が事前にチェックを行った。大会当日は受付で事前に健康状態を送っていた本人であるかを確認する為に、アプリで QR コードを表示し、それを読み取る機械を設置して本人であり、且つ健康状態が良好な人の入場が認められる仕組みになっていた。

・万が一事前の健康状態のチェック項目に異常があった場合は、受付にいるスタッフが具体的な健康状況の確認を取り、会場にいる医療スタッフに当該の入場を認めて良いか確認を取った。

・陸上で PCR 検査を実施しない理由として、プロ野球や Jリーグは、選手・チーム関係者を合わせても人数が少なくチーム単位のため、対象者の管理がしやすい状況。

・陸上競技は、競技会の規模により異なるが、多くの陸上競技会は、参加人数が多く、対象者の多くは個人になる。

・PCR 検査の結果の有効性は数日しかないため、開催日の直前に選手・競技役員など、競技会に関わる人を PCR 検査して陰性を確認することは、その開催地域の医療体制を圧迫(医療崩壊を招く恐れ) するため、実施する意義は高くないと考えている。

・専門家を招いて新型コロナウイルスに対する陸上競技の対策を協議し、スポーツの中でも最大の競技人口がある陸上競技は、感染のリスクを低下させることを主眼に置いている。

・PCR 検査で安全を確保するのではなく、大会前の競技会に関わる全ての人の体調管理のチェックや、競技会における新型コロナウイルス対策を実施することで、限りなく感染のリスクを低下させている。

・競技会運営で実施していることは当たり前のこと（マスク着用・手指の消毒・ソーシャルディスタンス・三密回避）であり、密集を回避する競技会の設定（種目の調整や、参加人数の調整）である。

・選手・監督においてはいつも一緒にいるため、競技会においてもソーシャルディスタンスを取らない姿が見受けられることがあったが、市民の皆さんにどう見られているのかとい

う意識を持っていただくことが必要。

- ・競技会開催には、対策を十分にしていることを見せていくことも必要である。

Q: 受付で健康状態に異常がある方がいた場合どのように対応したか。

A: 異常ありという表示が出た場合には、すべてお帰りいただくのではなく、受付で問診を行い、判断できない場合は医療関係者が確認を行った上で判断をするような流れであった。

Q: テレサの運用含め、必ずしもガイダンスに基づいた対応ではなく現場の状況に応じて対応をしたということか。

A: 陸連の主催する競技会においても、競技会の種類、規模、地域によって対応は様々であり、ガイダンスをベースにそれぞれに合わせた形で判断していった。北海道、東京、新潟と開催を実施してきたが、コロナの状況や行政によって方針は異なり、対応は変わってきた。

3. 第二部 各大会の検討状況

福岡国際マラソン、名古屋ウィメンズマラソンの開催検討状況

・福岡国際マラソン

小田邦彦 朝日新聞社 オリリンピック パラリンピック・スポーツ戦略室専任次長

大藤道矢 朝日新聞社 福岡国際マラソン大会事務局

・名古屋ウィメンズマラソン

北野耕示 中日新聞社 名古屋ウィメンズマラソン大会事務局長

・質問者

畔蒜洋平 日本陸上競技連盟事務局

(日本陸連)

大会開催を発表するにあたり開催地の行政や地元の方々から理解を得る必要があるかと思うが、どのような説明をされ、大義名分やどのようなビジョンをもってご理解をいただくことができたのか？

(福岡国際)

・福岡国際は1947年開催の大会であり、大会を始めたときの大義名分として、戦後の復興の礎となるということがあった。現在コロナ禍により社会が閉塞感に苦しんでいる状況である。そういった中で、社会に明るい光をもたらす一助になればということ掲げた。

・同時に、マラソンは1年に何本も走れるわけではなく、今後東京オリンピックやその先につながる有望な選手の活躍の場を提供していきたいということもエリートレースの果たす役割でもあると考えている。

(名古屋ウィメンズ)

・名古屋国際女子マラソンとしてスタートした経緯もあり、2012年には名古屋ウィメンズ

マラソンとしてリニューアルしたが、日本のトップ選手を支える大会として位置づけられてきた。

・2021年は選考レースとはならないが、今後の世界選手権や、パリオリンピックを見据えて開催していくことが必要であると考えている。

(日本陸連)

2021年は一般ランナーも募集することになったが、その意義はどのように捉えているか？

(名古屋ウィメンズ)

・2020年大会は一般ランナーの部は中止とした。代わりにオンラインマラソンを実施し、2万2000人もの方にご参加頂いた。その際、開催してくれてありがとう、来年は名古屋を走りたいとの声が聞こえた。

・最初から中止ということは考えておらず、どうしたら開催できるのか検討を重ねていった。

・地元行政も同じ方向を向いて進んで来られたと思っている。

(日本陸連)

参加料の値上げは難しい判断だったと思うが、どのような経緯でその判断をされ、ランナーからはどのような反応であったか？

(名古屋ウィメンズ)

・高い！というのがランナーの第一の反応であった。

・2020年大会は13,850円であったものを、2021年は26,000円とした。

・参加人数は、22,000人から11,000人と半分にさせて頂いた。基本的には各大会を主催されている方はわかると思うが、人数が100人だろうが1000人だろうが1万人だろうが、警備等安全対策にかかる費用はほとんど変わらない。

・今回はコロナ対策として予算は取っているが、それを補うためには、ランナーの方にもご負担いただこうと考えていた。

・値上げで悩んだわけではなく、いくりに設定するかで悩んだ状況である。

・高いという反応はあったものの、先行エントリーが終わったところであるが、ほぼ一瞬で定員になったので、ランナーからもある程度ご理解はいただけたと認識している。

(日本陸連)

沿道の感染対策についてはどのように考えているか？

(福岡国際)

・福岡市はじめ、警察の皆様も対策を取るように指摘をされているところであり、事務局としても一番懸念をしているところである。

・今の段階では、ポスターやあらゆるメディア等を使用し広報活動を通して沿道観戦自粛の

呼びかけをしている状況。

- ・感染症専門医の先生にも入って頂き、現在のコロナの状況であれば、非常な密（沿道で人垣が二重にも三重にもなるような状況）にならないければ、マスクを装着している分についてはクラスター等の発生リスクはそこまで高くないのではという話を頂いている。
- ・地元の方にいかに沿道に出ずに自宅で楽しんでいただけるかということが必要となる。
- ・従事していただく方（スタッフ・競技役員）には、徹底した沿道感染対策をしなければならぬと思っている。マスクの着用、携行用スプレアの常備を検討している。

（日本陸連）

場所によっては混み合っていたり、空いていたりということがあると思うが、そのあたりの検証はされているか？

（福岡国際）

- ・アクセスのいい場所（地下鉄の出入り口や繁華街周辺など）には例年も人が集まりやすくなっているため、密にならないようにするため人員を割くことは検討している。

（日本陸連）

Q：ボランティアの人手不足が課題として挙げられる大会が多い状況だが、どのような対応をされているか？

（福岡国際）

- ・今年の6月～7月にボランティア確保のシミュレーションをしたが、例年の6割程度しか集めることが出来ず、大きなハードルとなっていた。
- ・不足してしまう分については、地元のランニング関係者の方にお声がけをしており、例年の2倍以上の方から参加表明を頂くことができています。
- ・参加表明頂いた方の中には、これだけ大会が中止となる状況で、まずは大会を開催することに協力し、多くの方に大会開催への理解を広めていきたいというお声も頂いている。
- ・例年よりも少ない中ではあるが、ボランティアの目処が立ったこともあり、開催の発表に至った。

（日本陸連）

- ・ランナーにボランティアをお願いするというのは、今までありそうでなかった取り組みでもあると思うので、各大会の参考として頂ければと思う。

（その他大会からの質問）

高校生のボランティアはお願いしても構わないか？

（日本陸連）

高校生にボランティアをお願いするかどうかについては、地元の行政の方や教育委員会等と協議頂き、方針を決めて頂きたい。

(日本陸連)

沿道対策や、スタートにおける密についてどのように対応される予定か？

(名古屋ウィメンズ)

- ・丁寧に応援自粛を呼びかけていき、例年多く人が集まるところへはスタッフ等を配置し、滞留禁止の呼びかけを実施予定。
- ・スタートについては、ナゴヤドームの敷地内でソーシャルディスタンスを確保できる人数が今回募集予定の1万1000人であり、ウェーブスタートは必須と考えている。

(日本陸連)

参加人数が多いことについて、懸念点や工夫されている点があれば教えて頂きたい。

(名古屋ウィメンズ)

- ・フィニッシュ後にティファニーをお渡ししていることもあり、名古屋はどうしても避けられないと考えている。ゴール後すぐにマスクや消毒を渡し、うまくゴールをさせてランナーを流していくことが検討課題である。
- ・人数制限をしながらエキスポも実施を予定しており、展示会向けのガイダンスを見ながら対策を実施予定。

②湘南国際マラソンの開催検討状況

湘南国際マラソン

比企啓之 株式会社ランナーズ・ウェルネス 企画開発部 部長

質問者

畔蒜洋平 日本陸上競技連盟事務局

1. コロナ禍でのエントリーの考え方

- ・通常12月の第1週での開催であったが、2月28日へと開催日を変更した。
- ・エントリー頂くランナーの不安を取るということで、以下を賛同し、参加頂いた。
(距離・コースが変更になる可能性があること/最少催行人数が集まらない場合は中止の可能性
があること/12月10日に開催の最終判断を実施すること/中止の場合は全額返金をすること)
- ・募集数は、25,000人から18,000人と30%減少させた。
- ・募集を開始したが、予想以上の反響があり、通常の3倍の応募があった。
- ・12月10日に開催を決定する上での前提条件として以下の4つを挙げた。
 - ①新型コロナウイルス感染症の状況が2020年8月28日時点より好転していること
 - ②神奈川県及びコースを通過する全ての管轄する自治体からイベントの開催が認められていること

③神奈川県において、新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っていて緊急時の後方支援病院があること。

④申込時の人数が最少催行人数「18,000人」に達していること。

・④については現時点でクリアをしている状況。

・感染拡大状況に応じて、距離とコースを変更する予定。なんとか実施できる場合には、西湘バイパスのみの周回コースで、無観客にて開催。コロナの状況に応じて20kmから距離を伸ばしていく予定。

2. 給水について

・一切のゴミを出さないマイボトルマラソンとし、選手自身にマイボトル・マイカップを用意してスタート頂き、これを承認しないと参加できない仕組みとした。

・今まで利用してきたペットボトル数は31,500本、コップ50万個、フィニッシュ後のペットボトル26,000本を全て廃止。約6トンのCo2の削減効果となる。

・コース上に500箇所以上(50トン分)の給水所を用意。約80mごとに給水所がある。

(参考 URL : <https://youtu.be/Yd7TjRqpmTo>)

・災害時にも役立てたいということで大会の日を、訓練の日とし、有事の際も排水貯水池から水が運べるかを訓練する予定。

・開催において地域に負担ばかりかけている状況であり、新たなマラソンの価値として進めている。

3. 運営の特徴

・コロナの状況が一番深刻な際に実施を決定した場合、下記の対策を実施予定。

・会場入場時・フィニッシュ時に全員の手指・足元を洗浄除菌。

・ランナー・ボランティア全員に除菌スプレーの配布の実施。

・入り口にはサーモグラフィーの設置。

・使用したジャグは除菌スプレーで洗浄除菌。

・自分のことは自分で実施していただけるようなランナーを増やすことも目的としている。

・18,000人だとウェーブスタートを実施しても密が解消できない可能性があるため、会場を10箇所に分ける。

・10分ごとにスタート時間を指定し、参加者は10箇所の会場に1時間半前に集ってもらい、移動しながらスタートしていくような仕組みとした。スタートは19ブロックに分けている。

・給食については受付でお渡しさせて頂く。

・今後4ヶ月かけて詳細を設計していく予定。

質疑応答

(日本陸連)

例年の大会と比べて、予算はどのようになっているか。

(湘南国際マラソン)

・予算は上がってはいる。コロナ対策費として1,000万円以上かかっている状況。12月10日の段階でどの対応を取っていくか判断する。

4. あいさつ：尾縣貢（日本陸上競技連盟 専務理事）

- ・貴重な情報共有をして頂きありがとうございました。
- ・色々な対策を講じれば、大会を開催することができるのではという勇気も湧いてきたものと思う。
- ・ガイダンスは開催するために利用して頂き、なんとか大会開催にこぎつけて頂きたい。
- ・日本陸連にもコロナ対策本部があるので、不明点等あればご連絡頂ければと思う。